

高速道路での運転



高速道路とは、高速自動車国道と自動車専用道路をいいます。




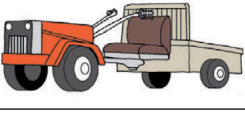
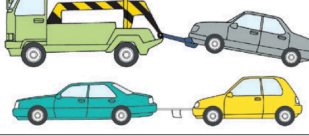


「高速自動車国道」とは、
 自動車の高速交通のためにつくられた道路で、全国の主要都市を結んでいます。
「自動車専用道路」とは、
 市街地やその周辺地域における交通の円滑を図るためにつくられた、自動車だけが通行できる道路です。

1 通行できない車 (高速法17、道路法48の11)

高速自動車国道と自動車専用道路では、ミニカー、小型二輪車、原動機付自転車は通行できません。
 高速自動車国道は、農耕用作業車のように構造上毎時50キロメートル以上の速度の出ない自動車やほかの車をけん引しているため毎時50キロメートル以上の速度で走ることのできない自動車は通行することはできません（けん引するための構造と装置のある自動車で、けん引されるための構造と装置のある車をけん引する場合は通行できます。）。

●高速自動車国道や自動車専用道路を通行できない車

車の種類	道路の種類	高 速 道 路	
		高速自動車国道	自動車専用道路
ミニカー 		通行できない	通行できない
小型二輪車 		通行できない	通行できない
原動機付自転車 		通行できない	通行できない
小型特殊自動車 		通行できない	通行できる
故障車をけん引している自動車 		通行できない	通行できる

② 速度と車間距離 (法22・23・26・75の4、令27・27の2・27の3)

1 最高速度又は最低速度の遵守












- ① 標識や標示で最高速度や最低速度が指定されているところでは、その最高速度を超えたり、最低速度に達しない速度で運転してはいけません。
- ② 標識や標示で最高速度や最低速度が指定されていない高速自動車国道の本線車道では、下表の最高速度を超えたり、最低速度に達しない速度で運転してはいけません。
- ③ 標識、標示で指定されていない自動車専用道路での最高速度や最低速度は、下表の適用ではなく、一般道路と同じです。

Keyword

「本線車道」とは、

高速道路で通常高速走行する走行車線と追越車線をいいます。加速車線、減速車線、登坂車線、路側帯、路肩はこれに含まれません。

●高速自動車国道（本線車道）における最高速度と最低速度

自動車の種類		最高速度	最低速度	
大型乗用自動車 (乗車定員30人以上)		100 km/h	50 km/h	
特定中型貨物自動車以外の 中型自動車、準中型自動車	 			
普通自動車 (三輪のものを除く。)	  			
大型自動二輪車 普通自動二輪車 (125ccを超えるもの)				
緊急自動車				
上記以外の 自動車	大型貨物自動車	80 km/h		
	特定中型貨物自動車 (車両総重量8トン以上最大積 載量5トン以上の貨物自動車)			
	三輪の普通自動車			
	大型特殊自動車			
けん引自動車 (トレーラー)				

備考

- ① 本線車道が道路の構造上往復の方向別に分離されていない区間では、この表の適用はなく、一般道路と同じです。
- ② 高速自動車国道でほかの車をけん引して走ることができるのは、けん引するための構造と装置のある車が、けん引されるための構造と装置のある車をけん引する場合に限ります。

2 スピードメーターの確認

長い時間高速で走ったり、夜間に高速で走ったりしていると速度感が鈍り、近くに障害物がないため実際の速度よりも遅く感じ、速度を出しがちです。速度計で確かめながら走行しましょう。

Research

より深く…

「スピード注意」

下り坂では、気が付かなくうちにスピードが出てしまいます。

前車との車間距離には十分気を付けて運転しましょう。



3 安全な車間距離の保持

車間距離を十分とって走りましょう。路面が乾燥していて、タイヤが新しい場合は、**時速100キロメートルでは約100メートル**、**時速80キロメートルでは約80メートル**の車間距離をとる必要があります。

また、路面が雨でぬれていたり、タイヤが減っている場合は、この約2倍程度の車間距離が必要となる場合があります。

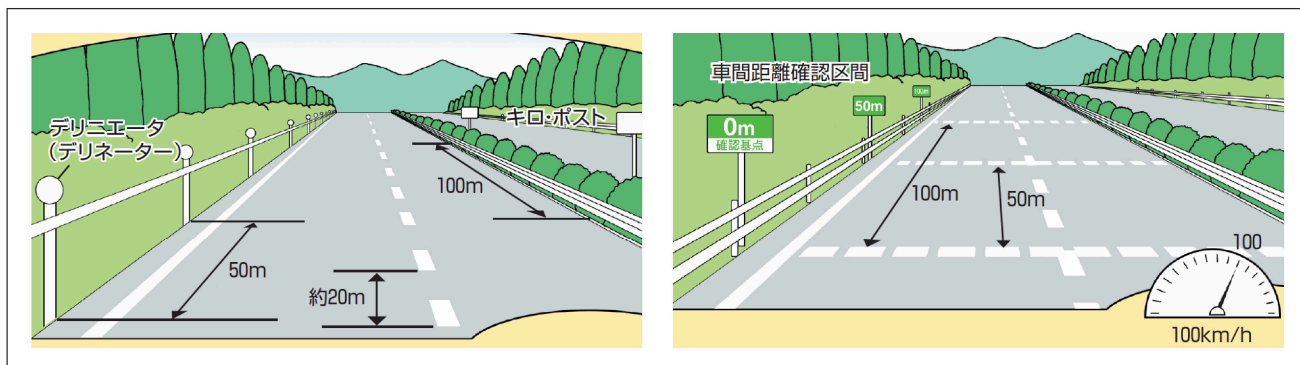
Research

より深く…

「車間距離保持義務の罰則」

高速自動車国道等において、車間距離保持義務違反をした場合の罰則が「5万円以下の罰金」から「3月以下の懲役又は5万円以下の罰金」に引き上げられました。

◆車間距離を目測する目安

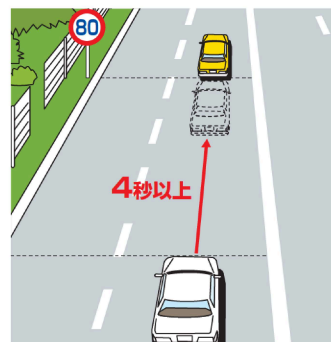


Research

より深く…

「車間距離を保つ」

自分の前の車が走行している位置（標識などを目安にするとよい。）を通過したあと、4秒以上たつて、自分の車がその位置にさしかかると安全な車間距離が保てます。

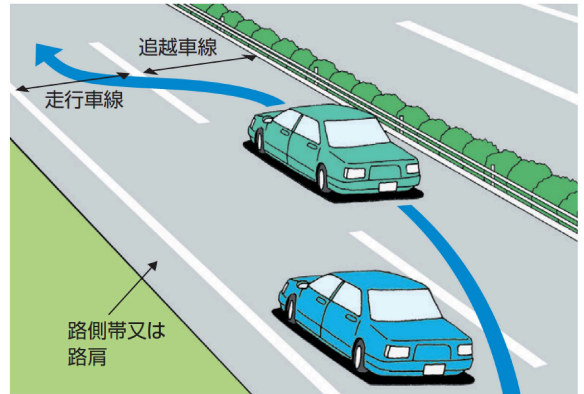


③ 通行区分等 (法17・20・75の8の2、制限令9)

1 通行区分

走行中は、左側の白の線を自安にして**車両通行帯**の**やや左寄り**を通行するようにしましょう。後方の車が追いつく場合に十分な間隔がとれて、接触事故の防止に役立ちます。

◆車両通行帯のやや左寄りを通行しましょう。



2 けん引自動車(トレーラー)の通行区分

車の総重量が750キログラムを超える車をけん引している車でけん引するための構造と装置のあるものは、次の車両通行帯を通行しなければなりません。

- ① 車両通行帯が設けられた自動車専用道路(標識や標示で指定された区間に限ります。)では本線車道の最も左側の車両通行帯
- ② 高速自動車国道の本線車道では、その最も左側の車両通行帯(標識や標示によって通行区分が示されているときは、それに従う。)

けん引自動車の自動車専用道路第一通行帯通行指定区間



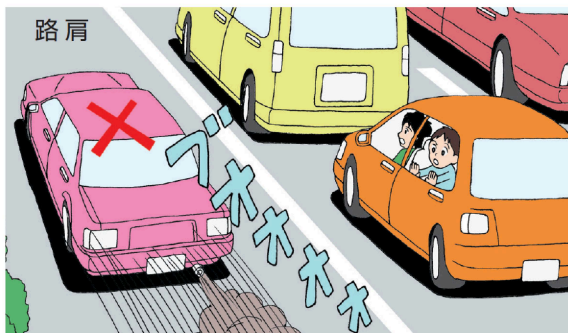
けん引自動車の高速自動車国道通行区分



3 路側帯及び路肩の通行禁止

高速道路の路側帯や路肩は、故障などでやむを得ず駐停車するため必要な限度において通行する場合のほか、通行してはいけません。

◆路肩走行は、ルール違反というばかりでなく、大変危険な行為です。絶対にやめましょう。



注!

「高速自動車国道の通行区分の例外」

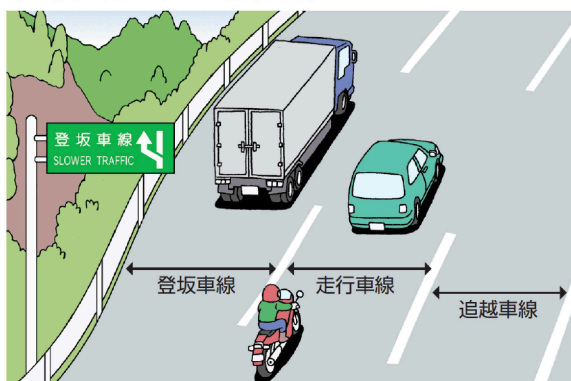
次の場合には、最も左側の車両通行帯以外を通行することができます。

- 最低速度に達しない速度で進行している自動車を追いつく場合
- 通行している車両通行帯の進路変更が禁止されている場合
- 接近してきた緊急自動車に進路をゆずる場合
- 工事や事故など、やむを得ない場合

4 登坂車線の利用

登坂車線のある道路では、荷物を積んだトラックなどの速度の遅い車は、登坂車線を利用しましょう。

◆速度の遅い車は、登坂車線へ。



注!

「登坂車線の通行」

登坂車線は本線車道ではありませんから、最低速度に達しない速度で通行してもかまいませんが、駐停車してはいけません。

4 禁止事項 (法71の4・75の5・75の6・75の8)

1 二輪車の二人乗り禁止

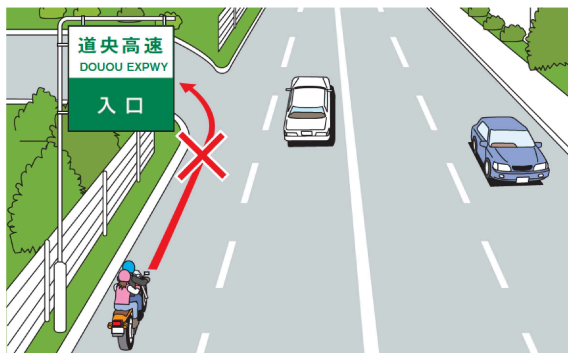
高速道路では、大型自動二輪車、普通自動二輪車は、次の場合は、二人乗りをしてはいけません。

- ① 大型自動二輪免許を受けた者で、20歳未満のもの又は大型自動二輪免許を受けていた期間が3年未満のものが、大型自動二輪車や普通自動二輪車を運転するとき。

ただし、20歳以上で、かつ、普通二輪免許を受けて3年を経過している場合は、二人乗りをすることができます。

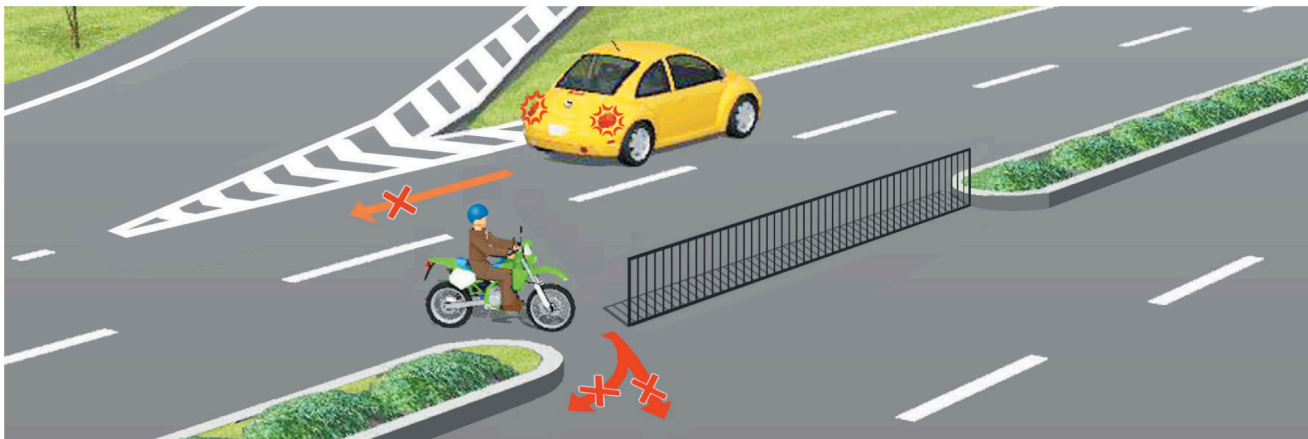
- ② 普通自動二輪免許を受けた者で、20歳未満のもの又は普通自動二輪免許を受けていた期間が3年未満のものが普通自動二輪車を運転するとき。

◆20歳未満などの二人乗りは入れません!



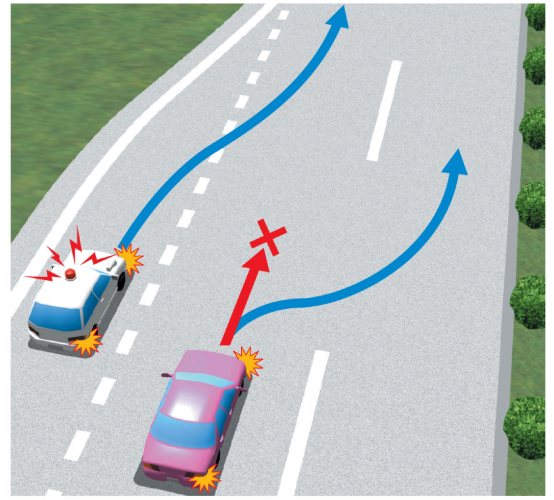
2 転回、後退又は横断の禁止

本線車道では、転回したり、後退したり、中央分離帯を横切ったりしてはいけません。



3 緊急自動車の通行妨害の禁止

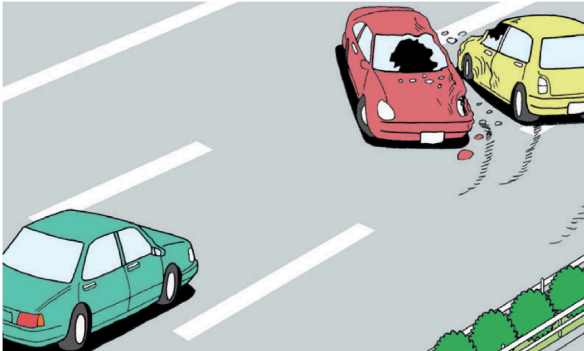
緊急自動車が本線車道へ入ろうとしているときや、
本線車道から出ようとしているときは、その通行を妨
げてはいけません。



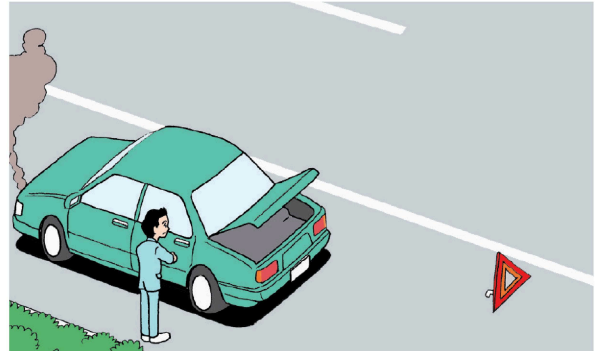
4 駐停車の禁止

高速道路では、次の場合のほかは駐車や停車をしてはいけません。

① 危険防止などのため一時停止するとき。



② 故障などのため、十分な幅のある路肩や路側帯にやむを得ず駐停車するとき。



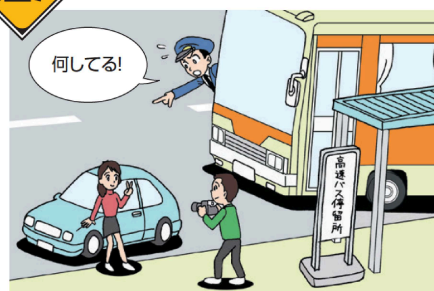
③ パーキングエリア、サービスエリアで駐停車するとき。



④ 料金の支払いなどのため停車するとき。



注!



高速道路の停留所（バス・ストップ）は、路線バスだけのものです。一般車が、駐停車などに利用することはできません。

5

故障時等の措置 (法75の8・75の11、令18・27の6)

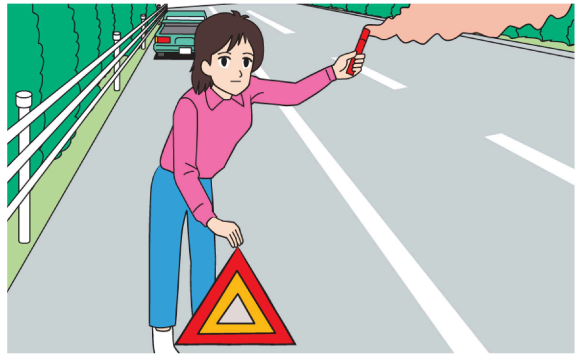
1 路側帯又は路肩の利用

故障その他の理由によりやむを得ない場合に停車又は駐車するときは、十分な幅のある路肩、又は路側帯を利用しましょう。

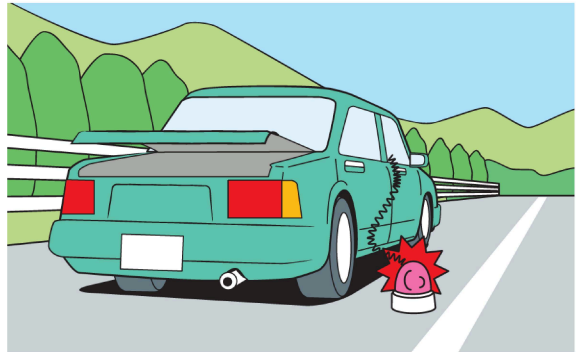
2 故障車の表示

- ① 高速道路で故障、燃料切れ、交通事故などにより運転することができなくなったときは、自動車の後方の路上に**停止表示器材**を置き（歩行が困難で自動車の後方の路上に停止表示器材を置くことができない場合には、停止表示灯については自動車の側方の路上などの後方から見やすい場所に置くこともできます。）、後続車の運転者に停止していることがわかるようにしなければなりません。
- ② 停止表示器材を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど後続車に十分注意しましょう。
また、風の強いときなどに停止表示板を用いる場合には、倒れたりすることのないよう必要な措置を講じましょう。特に車体の後部に連結して補強措置を講ずる場合には、きちんと連結しましょう。
- ③ 夜間は、停止表示器材のほかに**非常点滅表示灯**、**駐車灯**や**尾灯**をつけなければなりません（昼間において、視界が200メートル以下の場合も同じです。）。
- ④ 修理などが終わり現場を立ち去るときは、停止表示器材を置き忘れないようにしましょう。

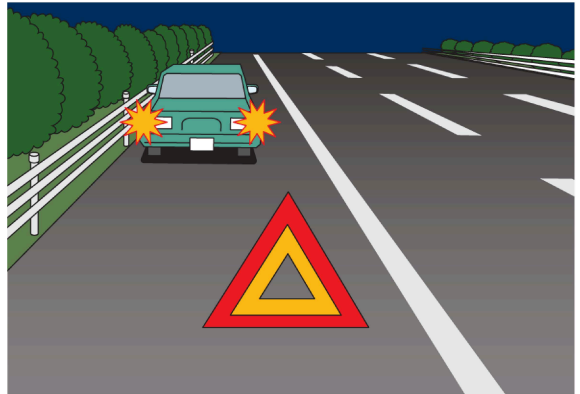
◆後続車に十分注意し、停止表示板を車の後方に置きます。



◆歩行が困難なときは……



◆夜間は……



Research より深く…

「発炎筒」

- ・発炎筒の有効期限は4年間です。
- ・古くなった発炎筒は着火しないおそれがあるので、必ず交換するようにしましょう。
- ・発炎筒の燃焼時間は5分強です。この時間内に安全な場所に避難するようにしましょう。

(JIS規格より)

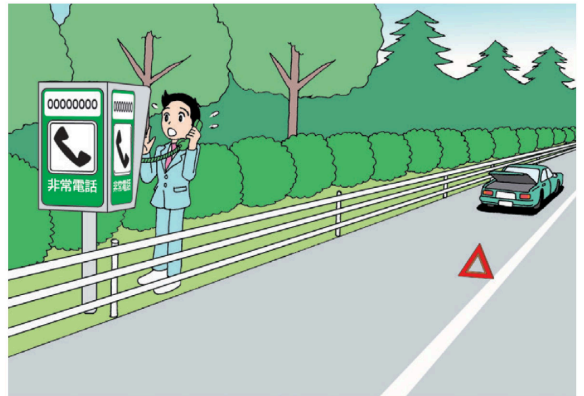
3 車の移動及び非常電話の利用

故障、燃料切れ、交通事故などの理由により運転することができなくなったときは、110番通報で警察に連絡するとともに、近くの非常電話でレッカー車を呼ぶなどして、速やかに安全な場所へ移動させなければなりません。

また、可能であれば、ギアをローかセカンドに入れ、セルモーターを使って路側帯や路肩へ移動させましょう（ただし、オートマチック車やクラッチペダルを踏まないでエンジンが始動しない装置を備えている車には、この方法は使えません。）

二輪車は、後続車に十分注意し、すばやく路側帯や路肩へ移動させましょう。

◆あせらずはっきり伝えましょう。



Research

より深く…

「非常電話」

非常電話は約1kmごとに設けられています。受話器をはずすと道路管制センターと通話できるようになっています。

電話がつながったら、

- ① 非常電話の番号
 - ② 故障か事故か
 - ③ 車の止まっている場所（路側帯か本線車道内か）
 - ④ 負傷者の有無
- などの点を、正確に伝えるようにしましょう。

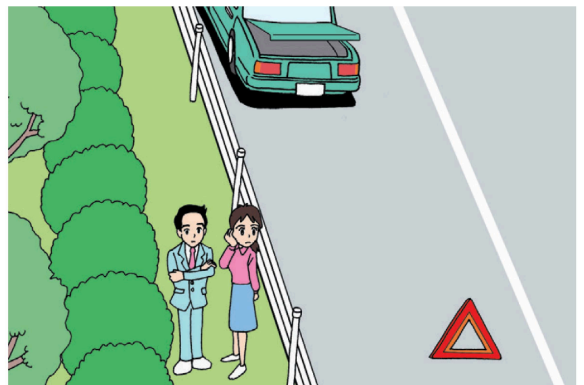
4 転落、飛散物の除去

高速道路上は危険ですから、荷物が転落、飛散したため、その物を除去するなど必要な措置をとるときには、110番通報で警察に連絡するとともに、非常電話を利用して、荷物の除去の依頼などをしましょう。

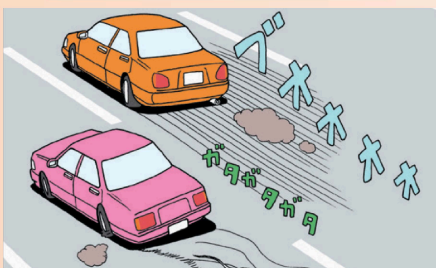
5 避難

高速道路上で運転することができなくなった車にとどまることは、後続車が衝突する交通事故が発生するおそれ大きく、大変危険です。必要な危険防止措置をとった後は、車に残らず、ガードレールの外側などの安全な場所に避難しましょう。

◆道路外で待機します。



セーフティエチケット



トラブルは命がけ

高速道路上のトラブルは、一般道路に比べると大変危険です。本線上での停車はもちろん、たとえ路肩であっても100キロメートル毎時で走行中の車が脇を通るので、命がけといってもいいでしょう。また、本線上で動かなくなってしまうと、危険な上に、ほかの運転者に迷惑を掛けることにもなります。それだけに、高速道路を走る前には、タイヤの空気圧、燃料、冷却水やバッテリー一液を点検してトラブルを起こさないように心掛けましょう。

6 高速道路利用上の心得 (法75の10)

1 利用上の心得

高速道路の走行は、一般道路の走行に比べ、走行感覚がまったく違うばかりでなく、目に見えない大きな危険がひそんでいます。

したがって、高速道路を走行するときは、高速道路におけるルールやマナーはもちろん、安全な高速走行に必要な知識を十分身につけることが大切です。

1 車の点検

高速道路を通行する場合は、特に次の点検をしなければなりません。高速道路で、燃料、冷却水、エンジンオイルの不足により、停止することのないようにしなければなりません。

- 燃料の量が十分であるか。
- 冷却水の量が規定の範囲内にあるか。
- ラジエータキャップが確実にしまっているか。
- エンジンオイルの量が適当であるか。
- ファンベルトの張りぐあいが適当であるか、また損傷がないか。
- タイヤの空気圧が適当であるか（高速道路を走行するときは、空気圧をやや高めにする。）。
- タイヤのみぞの深さが十分であるか。

2 積荷の点検

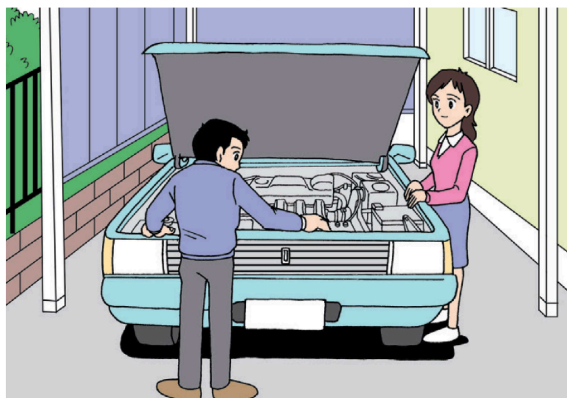
高速で走行すると、荷物が転落、飛散しやすくなるので、高速道路を通行するときは、前もって、荷物が転落、飛散しないように点検し、荷物を積み直すなど必要な措置をとらなければなりません。

3 停止表示器材の用意

高速道路上で故障などによって停止するときは、停止していることを表示する停止表示器材を置かなければなりませんので、前もって準備しておきましょう。

停止表示器材は、努めてTSマークのついたものを使いましょう。

◆車の点検は十分ですか？



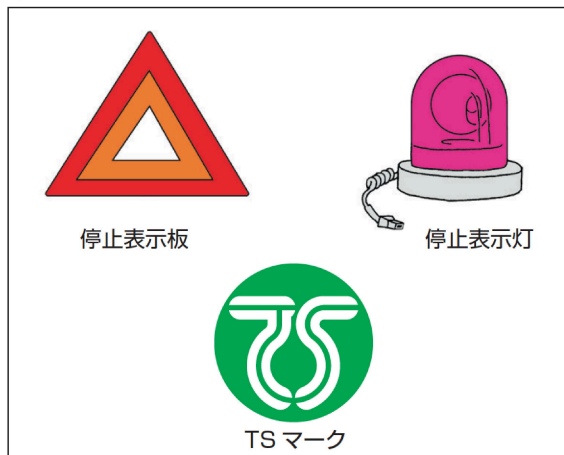
Research より深く...

「スタンディング・ウェーブ現象」

高速回転するタイヤの接地面で受けた変形が回復しきれないで、接地面と離れているタイヤの部分に波の形が現れること。この現象が現れると、タイヤは変形のため高温となり、ついにはこの熱に耐えられなくなり、トレッドが徐々にちぎれ飛び散るようになります。このためタイヤの表面が薄くなり、パンクやバーストをしてしまいます。

この現象は、タイヤの空気圧が低いほど発生しやすいので、空気圧を高めにするこゝとである程度防ぐことができます。

◆停止表示器材

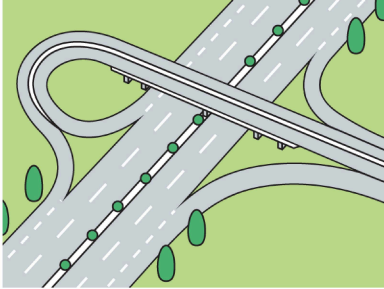


2 高速道路の特徴

高速道路は、一般道路に比べ、その施設などにいろいろと特徴がありますので、あらかじめよく理解しておく必要があります。

① インターチェンジ

高速道路の出入口です。



② サービスエリア

約50kmごとにあり、売店、ガソリンスタンド、修理設備、駐車場、食堂などがあります。



③ パーキングエリア

約15kmごとにあつて、駐車場、売店、トイレなどがあります。



④ 非常電話

おおむね1kmごと（トンネル内は200mごと）の路肩に設置しており、交通事故、故障などのときに利用します。



⑤ ゲート

通行券を受け取り、通行料金を支払うところです。また、係員のいる詰所をブースといいます。

なお、料金の精算には、クレジット・カードが利用できる場所もあります。

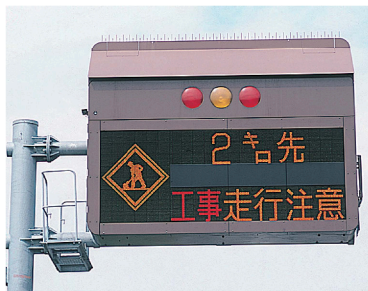


⑥ 情報提供施設

運転者に道路や交通の状況、天候など必要な情報を知らせるためのものです。

電光掲示板

悪天候、事故発生、工事、火災などの状況が表示されます。



ハイウェイラジオ

5分ごとに最新の情報を提供してくれます。



車間距離確認標識

安全な車間距離を保つための目安として表示されます。



道路案内所

サービスエリアの無料休憩所にあります。



7 走行計画の立て方

1 無理のない運転計画

長時間連続して高速運転をすることは危険です。

2時間に1回は十分な休憩時間をおりこんだゆとりのある運転計画を立てましょう。

2 正しい運転姿勢

① ゆとりのある正しい運転姿勢は、安全運転の第一歩です。シートベルトは必ず着用しましょう。体をドアによりかけたり、片手ハンドルなどの運転は、とっさの場合に危険です。

② シートベルトは、交通事故に遭った場合の被害を大幅に軽減します。運転者はもちろん、すべての同乗者にも必ず着用させなければなりません。

3 車の特性に応じた走行

高速道路を走行する車には、大型、普通、けん引、二輪など数多くの種類があり、しかも車ごとにそれぞれの特性があります。したがって、その車の特性を知り、それを生かした運転をすることが安全運転の基礎となります。

4 高速催眠現象

高速走行に慣れるにしたがい、緊張感が薄れて居眠りが出る危険性があります。

特に交通量の少ない直線の長い道路では、この危険な居眠りが発生します。これが高速催眠現象です。これを防止するため窓を開けたり、ラジオなどのボリュームを上げるなど、車内の環境を変えるようにし、最寄りのパーキングエリアかサービスエリアで休憩しましょう。

5 案内標識のあらまし

案内標識に注意し、目的地への方向や距離などを絶えず予知しながら走行します。

<p>方面と方向</p>	<p>方面と距離</p>	<p>方面と出口の予告</p>	<p>方面及び出口</p>
<p>サービスエリア</p>	<p>パーキングエリア</p>	<p>非常電話</p>	<p>非常駐車帯</p>

6 交通状況の確認

高速道路に入る前には、ラジオを聴いたり、日本道路交通情報センターに問い合わせるなどして、道路や交通の状況を確認しましょう。

8 本線車道への進入 (法75の6・75の7)

1 インターチェンジ (入口) の注意事項

一般道路からインターチェンジに入るときは、速度を十分に落としましょう。

1 ゲートの確認

ゲートの手前では、進路変更による接触事故や追突事故が多いので、車の流れに注意しながら早めに進路を決めることが必要です。

2 ブースへの進入

青色信号のついているブースに進みます。

ETC (ノンストップ自動料金収受システム) を備えている車は、専用ゲートに進みます。

3 通行券のうけとり

料金所 (ブース) では、必ず一時停止し、係の人又は通行券自動発券機から通行券をうけとります。通行券をうけとりやすいように、離れすぎたり行きすぎたりしないように、注意しましょう。

ETC を備えている車は、ゲート内をノンストップで通過することができます。

◆料金所 (ブース) の手前で、他の車を追い越したり、急に進路を変更したり、急停止したりしないようにしましょう。



Research より深く...

【料金所での情報確認】

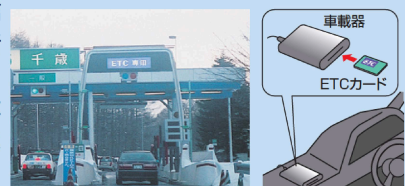
料金所付近では、「路面凍結」、「渋滞中」、「事故発生」、「霧発生」など、その日の道路や交通状況、気象状況などが掲示されています。インターチェンジが閉鎖され通行止めになることがあるので、見落とさないように注意しましょう。

【ETC (ノンストップ自動料金収受システム)】とは、

ETC (Electronic Toll Collection Systems) は、ゲートのアンテナと無線で通信できる車載機を設置して、挿入されたICカードにより、停車せずに料金の支払いを行うシステムです。これにより、ゲート内をノンストップで通過することができます。

しかし、ゲート内を通過するときは、先行車が一時停止したり、開閉バーが作動しない場合がありますので、いつでも停車できるような速度 (20km/h 以下) で走行するようにしましょう。

Keyword



セーフティエチケット

ETC

現在、高速道路の料金所には、ほとんどETCレーンが設置されています。

ETCのメリットには、次のようなものがあります。

①料金所のスループス②左ハンドル車の利便性の向上③各高速道路会社による割引制度④支払の際のアイドリングの不要
また、ETCレーンには、二種類あり、ひとつは専用レーン、もうひとつは一般共用レーンです。

専用レーンはETC車専用ですが、一般共用レーンは、ETC非装着車も通行できます。そのため、先行車が停止する可能性がありますので、ETCレーンだからといって車間距離が十分でないとは追突してしまう可能性がありますので注意しましょう。

2 本線車道への進入時の注意事項

1 行き先の確認

ゲートを通りかしたら、案内標識を確認し進入方向を間違えないようにしましょう。



2 ランプウェイの走行

ランプウェイは、本線車道ではありません。制限速度を正しく守って走行しましょう。

「ランプウェイ」

Keyword

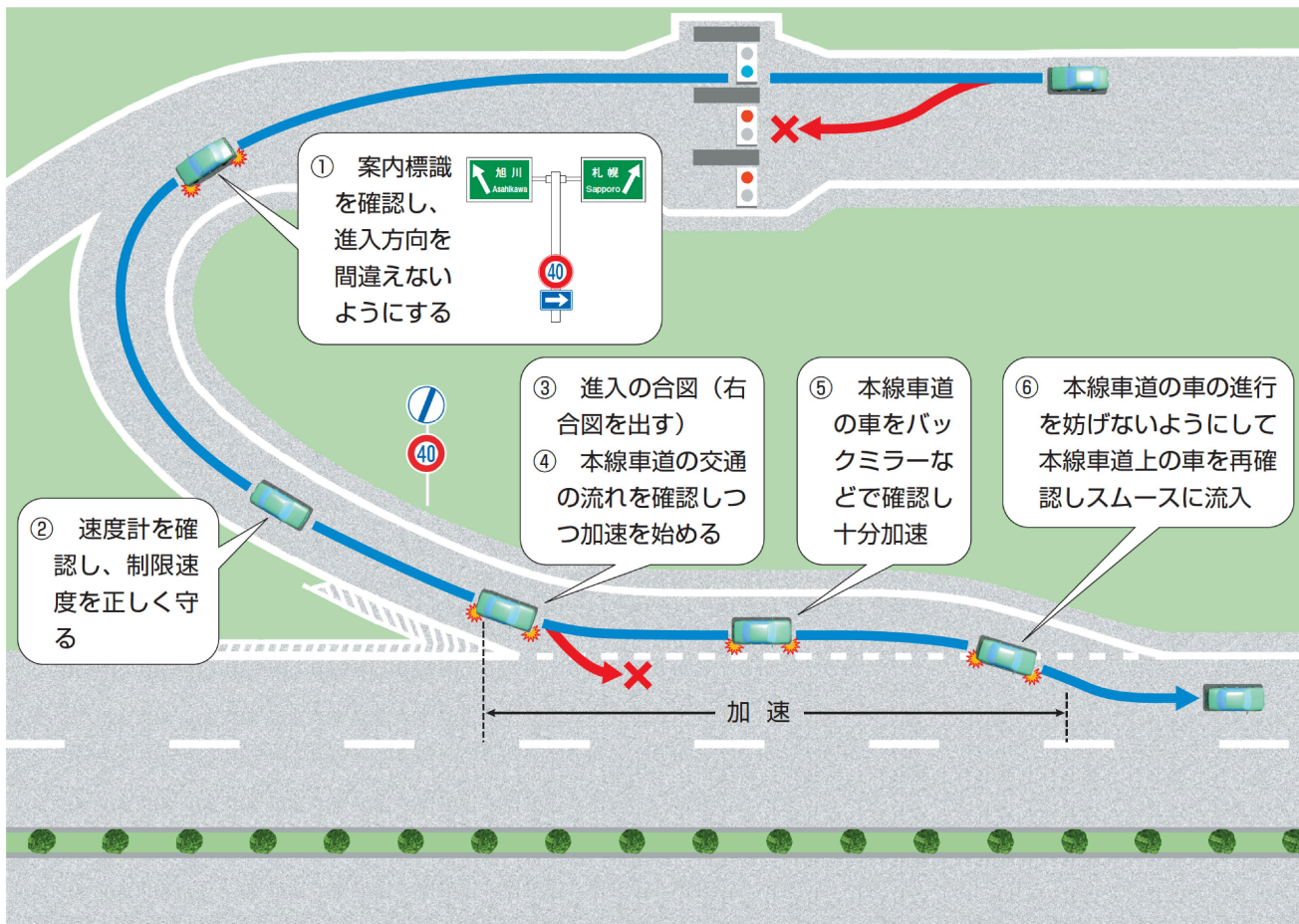
本線車道とインターチェンジを結ぶ接続道路をいいます。

3 本線車道への合流

本線車道へ入ろうとする場合で、加速車線があるときは、加速車線を通り、十分加速しなければなりません。

また、本線車道へ入ろうとするときは、本線車道を通りしている車の進行を妨げてはいけません。

◆インターチェンジから本線車道へ



9 本線車道での走行

1 走行上の注意事項

1 急ブレーキの回避

高速で走行中に急ブレーキをかけることは、たいへん危険です。ブレーキをかけるときは、一段低いギアに落としエンジンブレーキを使うとともに、フットブレーキを数回に分けて踏むようにしましょう。

また、二輪車の高速走行中の急ブレーキは、横転につながるなど大変危険です。急ブレーキにならないよう、早めに速度を落とすようにしましょう。

2 急ハンドルの回避

高速走行中の急ハンドルは避けましょう。

また、二輪車の高速走行中の急ハンドルは、安定性、方向性を失い横転につながるなど、大変危険です。

交通情報を早めにとらえ、急ハンドルにならないようにしましょう。

3 トンネル進入時の注意

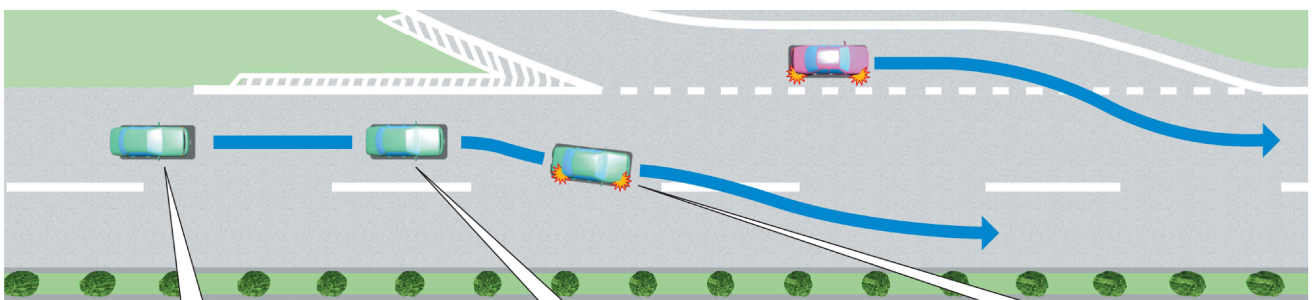
高速でトンネルに入ると、視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落としましょう。

また、次のことに注意しましょう。

- ① 追突等防止のため車間距離を多めにとる。
- ② 照明設備のあるところでも、前照灯をつける。
- ③ 信号機があるところでは、信号に従う。
- ④ ハイウェイラジオが聞けるところでは、ラジオを利用する。

4 インターチェンジなどの付近を走行するときの注意

インターチェンジやサービスエリアなどの加速車線の側方を通るときは、次のような注意が必要です。



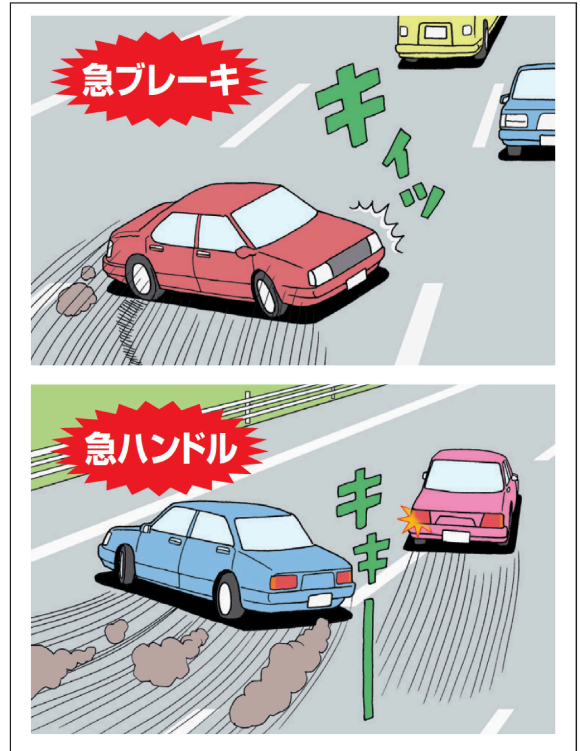
- ① 加速車線の車の有無を早く確認し、車がいれば、その距離と速度で本線へ入る時機を読み取る

- ② 加速車線の車に近づいたら、その車の動きに十分注意し、また後方の車にも注意し、場合によってはアクセルで加速を加減する



- ③ 追越車線を走行している車がいなかったことを確認し、状況によっては、追越車線に入り、加速車線の車に進路をゆずる

◆急ブレーキ、急ハンドルは、大変危険です。



5 疲労時の措置

走行中少しでも疲れを感じたり、眠気をもよおしたときは、最寄りのサービスエリアやパーキングエリアで十分に休憩し、安全運転に努めましょう。あわせて車の点検をしましょう。

6 夜間走行等の注意

夜間は、対向車と行き違うときやほかの車の直後を通行しているときを除き、前照灯を上向きにして、落下物や交通事故などにより停止した車を少しでも早く発見するようにしましょう。

7 道路情報板の情報

誤って本線車道などに進入し、反対方向から進行してくる車や、歩行者がいることがありますので、高速道路上に設置された道路情報板などの情報に注意して走行しましょう。

Research

より深く…

「サービスエリア」の標識は、サービスエリアの手前と入口にあります。

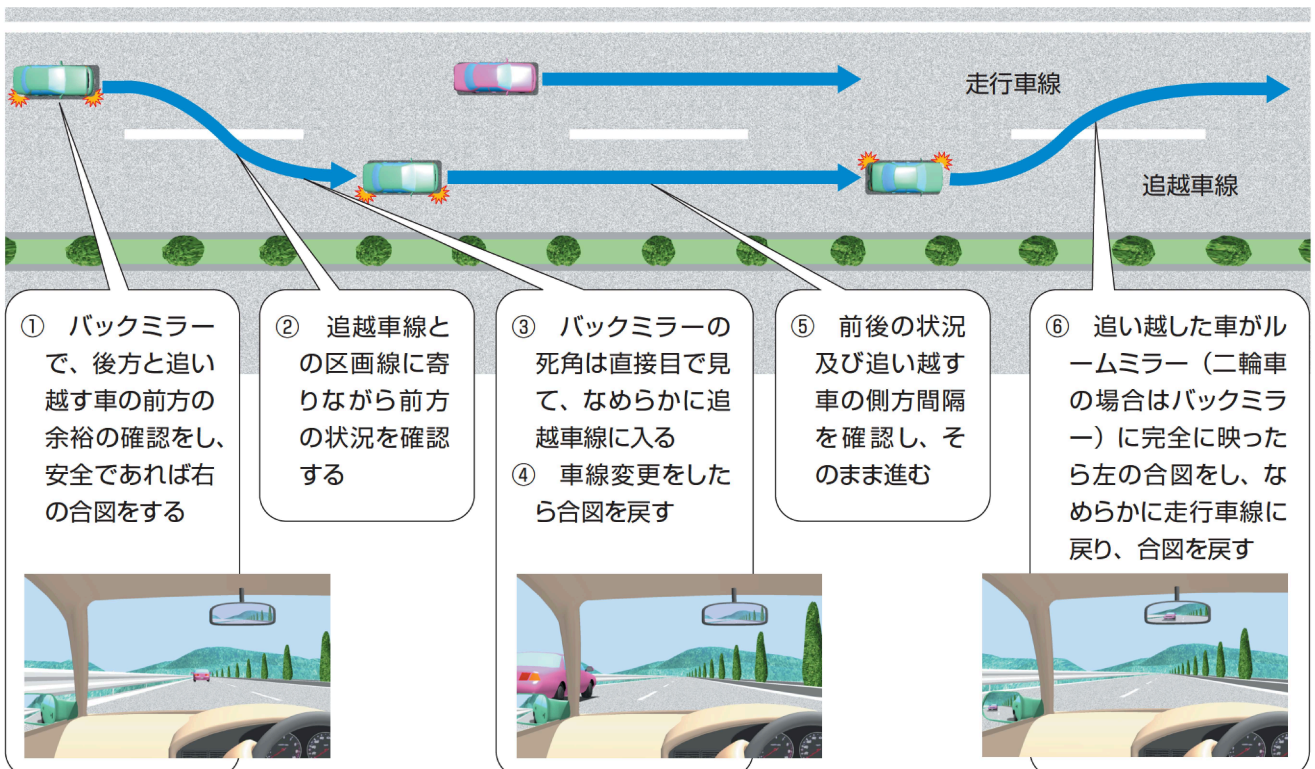
絵は左から駐車場、給油所、食堂、修理所を表しています。



2 追越し時の注意事項

高速道路での追越しは非常に危険です。したがって、高速走行中の追越しはなるべくひかえるべきです。

やむを得ず追い越す場合は、次のことに注意しましょう。



セーフティチケット

高速道路の走行

高速道路は、スピードが出やすく、運転しやすい構造になっています。しかし、スピードが出ている分、他の車の動きに注意した運転が大切です。例えば、追越しをした後に走行車線に戻るときは、追い越した車との車間距離を確認し、緩やかなハンドル操作で戻るようにしましょう。追越しをしてすぐに走行車線に戻ると、追い越された車は、おもわず急ブレーキを踏むことになり、後続車の迷惑になるばかりでなく、大変危険です。このように自分の車だけでなく、周りの車への影響を考えながら運転しましょう。

3 天候などに応じた適時適切な運転

1 雨天時等の運転

雨や雪や霧など悪天候下での高速走行は特に危険です。雨の中を、高速で走行すると、スリップを起こしたり、タイヤが浮いて、ハンドルやブレーキが効かなくなることがあります（ハイドロプレーニング現象）。また冬期間は路面がすべりやすく、視界も悪くなるので、車間距離を十分とり、速度に注意して走行しましょう。

これら悪天候下ではインターチェンジが閉鎖され通行止めになることがありますので、交通情報とよく注意しましょう。

2 強風時の運転

高速走行中にトンネルや切り通しから出た瞬間、強い横風を受けるとハンドルがとられ危険です。ハンドルがとられないようにしっかり握り、速度に注意して走行しましょう。

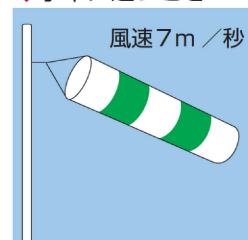
一般に、普通乗用車の場合、時速100キロメートルで走行中、風速7メートルの横風を受けると危険だといわれています。

図を参考に「吹き流し」の状態で風速を知っておくことが大切です。

3 夜間の運転

夜間の高速走行は、速度の感覚がつかみにくく、速度オーバーになりがちです。十分注意して走行しましょう。

◆水平に近いとき



◆約45度のとき



◆約30度のとき



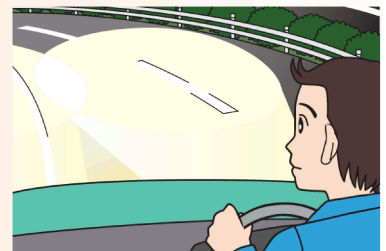
セーフティチケット

夜間はライン

夜間の高速走行は視界が悪く、前を走っている車のテールランプしか見えないこともあります。

これでは、カーブで急に眼前にガードレールが現れたり、知らないうちにレーンをまたいで走行していたりします。

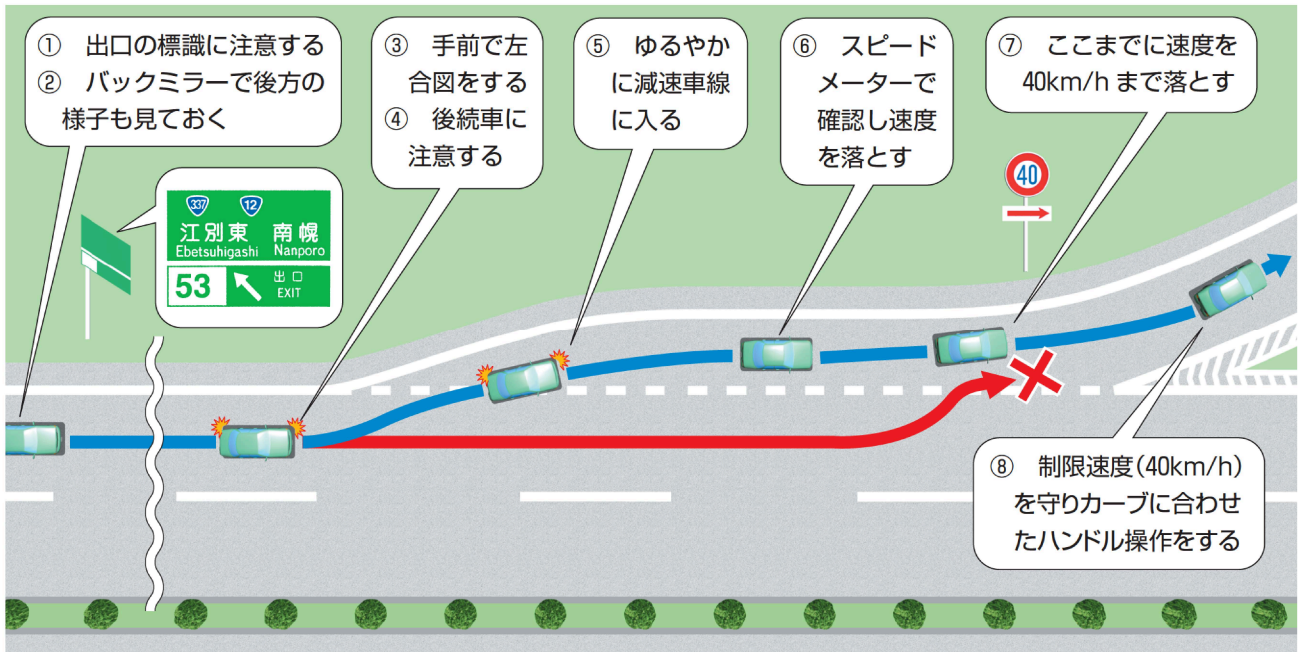
そこで、夜間の高速道路では、路側帯の白線を走行の目安とすると効果的です。この白線に沿って走れば、カーブなどの道路状況を把握できるばかりでなく、追越車線との間に余裕もでき、接触事故の防止にもつながります。



10 本線車道からの離脱

1 本線車道から離脱時の注意事項

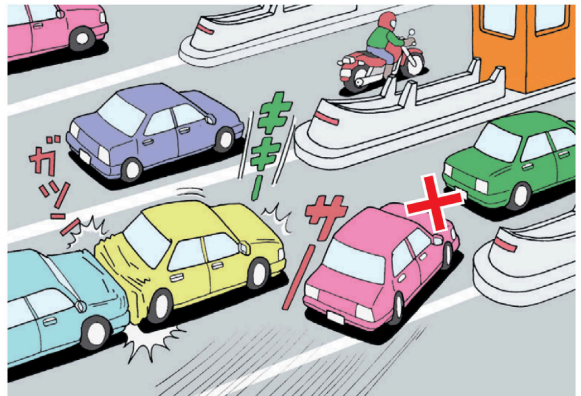
高速走行を続けた後は、かなり速度感覚がマヒしていますので、ランプウェイに入ってから急ハンドルや急ブレーキにならないよう注意しましょう。



2 インターチェンジ（出口）の注意事項

ゲートの手前では、追突事故が多いので十分注意しましょう。また、出るブースを早く決めて、途中で進路を変更してはいけません。

◆ 割り込みは危険!!



Research より深く...

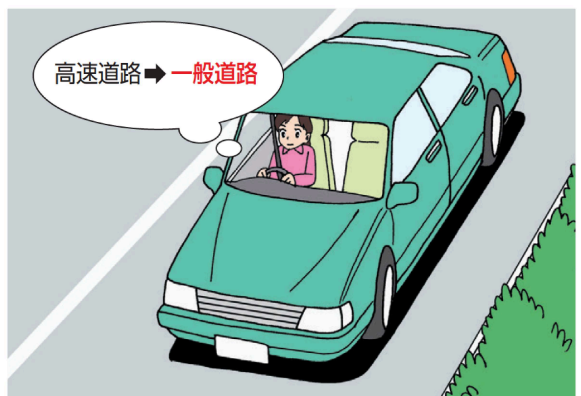
「スマートインターチェンジ」

一般のインターチェンジと違い、ETC専用インターチェンジのことをいいます。

ETC専用なので、ETCを搭載していない車両は通行できないので注意しましょう。

また、一般のインターチェンジのETCゲートは徐行通過（ノンストップ）することができますが、スマートインターチェンジでは、ETCゲートの直前で車両を必ず一旦停止させる必要があります。

◆ 速度に気をつけて走行しましょう。



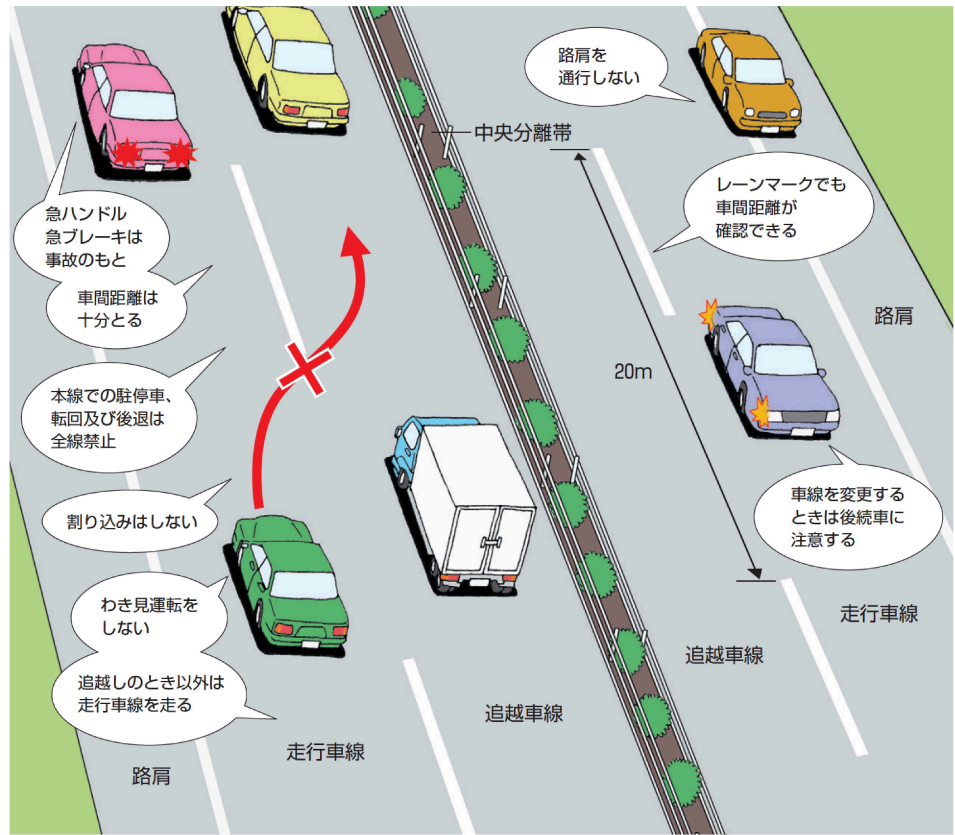
3 一般道路に応じた速度での走行

高速道路から一般道路に出てしばらくの間は高速走行の感覚が残っていて、ついつい速度を出し過ぎたり、危険な交差点をうっかり通過しやすいので注意して運転しましょう。

Research

より深く…

「高速走行の安全ポイント」



ためしてみよう! ○×問題

正しいと判断したときは○の欄、まちがっている
と判断したときは×の欄に✓印をつけてください。

- 問1 高速自動車国道での車間距離は、時速100キロメートルでは約100メートルは必要である。
- 問2 高速自動車国道の本線車道でも危険を防止するためやむを得ないときは一時停止することができる。
- 問3 高速自動車国道のトンネルの出口や切り通しの出口では、横風のためハンドルを取られることがある。
- 問4 高速道路を走行するときは、左側の白の線を目安にして車両通行帯のやや左寄りを通行するようにする。
- 問5 高速道路で本線車道に入るときは、加速車線で必ず一時停止して、安全を確かめなければならない。
- 問6 高速道路は、原動機付自転車は通行できないが、小型二輪車は通行できる。

○	×
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

▶解答と解説は、271ページにあります◀